



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報



第741回 平成14年 5月15日(水)

〔本日のプログラム〕 2001～2002年度 国際ロータリーのテーマ

- 1. 点 鐘
- 2. ロータリーソング
「それこそロータリー」
- 3. 食 事
- 4. 会長 の 時 間
- 5. 幹 事 報 告
- 6. 委 員 会 報 告
- 7. 会 員 卓 話
福井輝文君
- 8. 点 鐘

- 次 回 予 告
- ★ 5月22日(水)
クラブフォーラム
(会員増強)
 - ★ 5月29日(水)
次年度各委員会
活動方針
クラブ協議会

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週水曜日 (12:30~13:30)	会 長	吉田康一郎
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	宮原 建樹
事務局	宮崎郡佐土原町大字下那阿3887-17	幹 事	岩下 廣美
	☎880-0212	会 計	垂水 敏雄
	TEL及びFAX 0985-73-7170	会報委員長	池田 仁志

第740回例会記録

(2002. 5. 8)

☆会長の時間

会長 吉田康一郎 君

皆様今晚は。今日は第740回の例会で
ございます。

先週は私用のため、休会させて頂きま
して、大変失礼致しました。

私が企画を担当し、毎年5月に旅行を
実施している『五月会』と銘打ったグル
ープがありまして、1日～2日にかけて
鹿児島方面へ行って参りました。

前回、当クラブの親睦旅行で利用致し
ました、桜島の古里温泉に一泊しました。

玄関に入った瞬間、あの時の懐かしい
仲居さんのお迎えを受けまして、楽しい
夜の宴会をする事が出来ました。そして
何と13人のメンバーでビール45本、焼酎
4升を平らげておりました。かなり、皆
酔いまして意気を挙げておりましたが、
でも命の洗濯と申しましょうか、又頑張
るゾーという気持ちになりまして、気の
合った仲間との触れ合いの暖かさを感じ
た次第でございました。

そういう楽しい一時を私は持っていた
訳ですが、留守の時の会長代理の宮原副
会長には大変お世話になりまして有り難
うございました。

先日の新聞に、「不要な税、価格に上
乗せ」と題して、中古車販売大手“ガリ
バーインターナショナル”の記事があり
ました。

商談中、客が税金に詳しいかどうかを
見て、本来は必要のない自動車取得税を
販売価格に上乗せし、1999年8月以降、

約1万2千台で、計約1億3千万円を余
分に購入客に支払わせていたとの事。

自動車取得税法は昭和43年7月に創設
施行されました。

現行税率は軽自動車は営業車、自家用
車共に3%で、その他の自動車で、営業
車が3%、自家用車が5%となっております。
免税点は取得価格が50万円以下は
かかりません。ガリバーではこの点を充
分理解しないで、従業員に集めさせてい
た訳です。

一連の食品偽装表示と同じような問題
…と消費者協会理事長の談話もありまし
た。

世の中、スキあらばつけこみ、収入を
得ようとする悪徳商法が沢山ありますか
ら、ご用心、ご用心です。

さて、いよいよ今週の土、日に地区協
議会が開催されます。

出席される方々を、再度確認致します。
ご自分の分科会を十分に勉強されますよ
うお願い致します。

交通手段のマイクロバス代は、会計の
垂水君の了解を得ましたので、クラブ会
計より支出させて頂きます。その他、ゴ
ルフ、宿泊代等につきましては、個人負
担になります。

11日は親睦を兼ねた、ゴルフコンペを
都城の三州カントリークラブにてプレー
した後、鹿児島へ向かいます。12日は協
議会への参加です。

よろしくお願い致します。

☆幹事報告

幹事 岩下 廣美 君

1. 例会変更通知

5月14日(火)の例会は「夜間例会」
のため、時間 19:00~
場所 西の川 〓に変更
小林中央RC

11日(土)の集合、出発時間を申し上げます。

7:00集合、7:00出発です。

勉強と共に親睦もはかって参りたいと思います。

☆出席報告

委員長代理 田村 勝二 君

会 員 数	30名
例会出席者	22名
出席率	73%
メイクアップ者数	2名
修正出席率	80%
欠席者名	恒吉、神宮寺、宮本、柳田、郡司。

☆国際奉仕委員会

委員長 岩切 正司 君

収集用の木箱を設置して、古切手、ハガキ等を集めて参りましたが、今月迄で締切り、本部へ送付致したいと思います。ご協力、有り難うございました。

☆会員卓話

藤堂 孝一 君

地球に優しい木の住まい

木材はコンクリートや鉄といった他の素材に比べ、環境の面から見て大変優れた建築素材です。木は成長に伴い、二酸化炭素を吸って光合成により、木の中に炭素を蓄積します。蓄積された炭素は、木が枯れてから土の中で腐って分解したり、燃やされて二酸化炭素として空気中に放出されるまで、木の中に留まり続けます。

地球温暖化問題が深刻化している大きな原因として大気中の二酸化炭素の増加が挙げられます。住宅について、構法別の二酸化炭素排出量を見ると、木造建築は他の素材の建築と比べて、原料の生産の段階から、建てられ、壊されるまでのトータルで見て、**二酸化炭素の排出がより少ない素材です。**

むろん、木造建築といえども、建てたあと、簡単に壊さず、長く住まいの寿命を保つことが必要であることは言うまでもありません。

木造建築が都市の中で長いこと寿命を保って存在しているとき、都市そのものが炭素をストックしているという意味で「**都市は第二の森林**」と呼べるのです。

木の命を生かせない日本の家

現代の日本の家の寿命はとても短いものです。

古くから残っている家を除けば、現在日本の住宅の寿命は25~30年がピークで

あります。

単純に考えても、木が成長して、柱や梁として使えるようになるまでには少なくとも40年以上かかるわけですから、このままでは森林は減少する一方です。

家を解体したあとの木材のリサイクルも進んでいません。解体現場では木も土も金属も何もかもいっしょくたの解体、廃棄が普通に行われています。

かつては、解体した家をそのまま再利用したり、素材ごとに分け、木や藁は燃料に、土は練り直して、再び壁に塗るなどのリサイクルが普通に行われていました。

今日では、海外から、安い資源や木材を輸入する一方、①人手や手間賃が掛る、②解体した材料を置いておく場所がない、③住宅が工業製品化し、古いものを再利用する余地がない、などの理由から、建築物のリサイクルは滅多に見られなくなりました。

風土に合った住まい

家を建てる際、その家が存在している地域の風土に育った木を可能な限り、使うこと、又、民家を再生する際には、可能な限り、家が本来建っていた場所での再生を心がけることが重要です。

日本は、森を育む多くの先人たちの努力の結果、国土の3分の2が森林に覆われた、緑豊かな国となりました。

しかし、現在家に使われる木材のうち、国内産は僅か2割にすぎません。その結果、国内では山を支える人たちの仕事が減り、森林を育てていくことが、全国各地で困難になりつつあります。

また、風土を顧みない住宅が増加した

結果は、住む人にも影響を与えつつあります。

近年、合板などに使われる、接着剤や防腐剤などが原因となって起こる室内汚染（シックハウス）により、アレルギー性皮膚炎や疲労感の増加などの症例が増えているそうです。

昔の大工さんは、その地域の山々で育った木を使うことが、腐りにくく、狂いにくい家作りの基本であることを良く知っていました。

身近な森で育てられた木を、大切に使い続ける文化を取り戻すことが求められているのではないのでしょうか。

以上は <http://www.jp/kbank/kozai08.html> より引用



私の好きなことば

(ロータリーの友より)

偉い人立派な人もよいが私は謙虚な人になりたい

傲慢な人間には決してなりたくないので。

(東京練馬中央 包材製造卸 桜田 豊 70才)

かい

隗より始めよ

責任の持ち方には「他責」と「自責」がある。自分の責任の取り方を身につけることにより、おのずと自己啓発につながる。

(東京東江戸川 繊維製造卸 塚田俊夫 68才)

またよるこ

学びて時に之を習う、亦説ばしからずや

『論語』学而 孔子

孔子が言っていることに「学んだことを常に復習すれば理解が深まり、自分のものとして体得される。それこそ人生の喜びではないか」私はこれを何事も常に人に教えを請うという低姿勢でいれば、他人に嫌われることはない勝手に解釈している。

(愛知 合成繊維紡績 金山久雄 65才)